

産婦人科家庭医療学

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	2 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	2 人	

2 教員の異動状況

杉村基 特任教授 平成 24 年 6 月 15 日～現職

鳴本敬一郎 特任助教 平成 24 年 6 月 15 日～現職

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	1.90	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	4 編	(4 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Inagaki T, Makino S, Yorifuji T, Sugimura M, Takeda S. Effectiveness of heparin during long-term tocolysis ISRN Obstet Gynecol. 27:650532. 2013
2. Yorifuji T, Makino S, Yamamoto Y, Sugimura M, Kuwatsuru R, Takeda S. Time spatial labeling inversion pulse magnetic resonance angiography in pregnancy with adenomyosis. J Obstet Gynaecol Res. 39(10):1480-1483. 2013
3. Shiozaki A, Yoneda S, Nakabayashi M, Takeda Y, Takeda S, Sugimura M, Yoshida K, Tajima A, Manabe M, Akagi K, Nakagawa S, Tada K, Imafuku N, Ogawa M, Mizunoe T, Kanayama N, Itoh H, Minoura S, Ogino M, Saito S. Multiple pregnancy, short cervix, part-time worker, steroid use, low educational level and male fetus are risk factors for preterm birth in Japan: A multicenter, prospective study. J Obstet Gynaecol Res. 12. doi: 10.1111/jog.12120. 2013

インパクトファクターの小計

[1.9]

（２－１）論文形式のプロシーディングズ

（２－２）レター

（３）総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 鳴本敬一郎、杉村基「日本人女性の骨盤は変化してきているのか？－骨盤形態に関する研究の道のり－」カレント・フォーカス医療・周産期領域の最近の話題。助産雑誌、医学書院、東京、pp132-136、2014 年、【産婦人科】
2. 鳴本敬一郎、杉村基「妊婦の骨盤のカタチは変化してきているのか？」子どものからだと心 白書 2013. 子どものからだと心・連絡会議、東京、pp29-31、2013 年、【産婦人科】
3. 鳴本敬一郎「婦人科健診は、非常に幅広くて奥深いものだった・・・」医療界常識の非常識 39. DOCTER'S MAGAZINE、東京、2014 年 3 月号、【産婦人科、家庭医療科】
4. 鳴本敬一郎、杉村基「自信を持って診る!女性の腹痛【Part 1:産科・婦人科疾患を見逃さない!】症例検討「こんな腹痛患者が来たら...」」レジデントノート、東京、pp3002－3011、2013 年。【産婦人科、家庭医療科】

インパクトファクターの小計

[0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

（４）著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 杉村基 竹田省 編：産科診療マニュアル 日本医学刊 2013 産婦人科

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

（５）症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 25 年度
（１）文部科学省科学研究費	1 件 (80 万円)
（２）厚生労働科学研究費	0 件 (0 万円)
（３）他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
（４）財団助成金	0 件 (0 万円)
（５）受託研究または共同研究	0 件 (0 万円)
（６）奨学寄附金その他（民間より）	0 件 (0 万円)

（１）文部科学省科学研究費

基盤研究C 絨毛細胞障害のCD44細胞内シグナル伝達系を介した修復制御機構の検討

平成 23 年度 ～ 平成 25 年度 平成 25 年度 80 万円

（２）厚生労働科学研究費

（３）他政府機関による研究助成

（４）財団助成金

（５）受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
（１）特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
（２）シンポジウム発表数	0 件	0 件
（３）学会座長回数	0 件	2 件
（４）学会開催回数	0 件	0 件
（５）学会役員等回数	0 件	4 件
（６）一般演題発表数	0 件	

（１）国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

Narumoto K, Sugimura M, Saga K, Iida T, Tsuyama A. “Change of pelvic shape over five decades: Cross-sectional study and historical comparison of Japanese women of childbearing age” 第 65 回日本産科婦人科学術講演会（北海道）にてポスター発表。2013 年 5 月 12 日

（2）国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表
- 4) 座長をした学会名

日本産科婦人科学会

日本周産期新生児医学会

（3）役職についている国際・国内学会名とその役割

日本血栓止血学会評議員（肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症予防ガイドライン作成委員会委員、学術標準化委員会委員、学術促進委員会委員）、

日本妊娠高血圧学会評議員、

日本周産期・新生児医学会評議員（幹事、広報委員）、

日本産婦人科・新生児血液学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1 件	0 件

（1）国内の英文雑誌等の編集

Editorial Board Hypertension Research in Pregnancy IF 未

（2）外国の学術雑誌の編集

（3）国内外の英文雑誌のレフリー

5 回 Jounal Obstetric Gynecologic Research(日本)

9 共同研究の実施状況

	平成 25 年度
（1）国際共同研究	0 件
（2）国内共同研究	0 件
（3）学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	0 件

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道